様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月　 ２ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：若手研究(A)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３６８２００１

研究課題名（和文）日本古代・中世の敷地選定

研究課題名（英文）Site Selection in Ancient and Medieval Japan

研究代表者
ＶＡＮＧＯＥＴＨＥＭ　ＥＬＬＥＮ（Van Goethem, Ellen）

九州大学・人文科学研究科（研究院）・准教授

研究者番号：２０５１３１９６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　4,100,000円、（間接経費）　1,230,000円

研究成果の概要（和文）：風水における景観上での四神の表現方法に関する比較研究である。最古記録では、四神に対応する地形的な特徴は不明瞭なままである。後に、二つの共存する風習が、風水の中で、発達してきたようである。一つでは、自然地形の存在が強調され、四神は山などの地形として表現された。もう一つでは、それぞれの四神について、異なる自然的・人為的な地形的特徴の存在が必要とされていた。本研究では、後者の風習に注目した。文書資料の調査に基づいて、四神相応の思想の起源と発展をさかのぼり、異なる記録に関する基礎分析を行った。そして、「四神相応が宮都の位置の決定過程において利用されていた」という一般的な認識に対し、異議を唱えた。

研究成果の概要（英文）：This project concerns research into the way in which the four beasts that guard the directions are represented in the physical landscape within divination. In East Asia, the four directional beasts are identified as the Black Turtle-Snake, the Vermilion Bird, the Azure Dragon and the White Tiger. However, the earliest texts remain vague about the specific landscape features corresponding to each of the four. In later times, at least two coexisting traditions seem to have developed. Following one tradition, emphasis lay on the presence of natural features. Another tradition, required the presence of a different natural or man-made feature for each of the four.
This project focuses on the latter tradition. Through an investigation of written sources, it traces the origin and evolution of site divination, and provides a basic analysis of different textual traditions. It also challenges the commonly held view that it was a divination process used to determine the location of capital cities.

研究分野：人文学　哲学　思想史

科研費の分科・細目：東洋・日本思想史

キーワード：四神相応　作庭記　ほき内伝

１．研究開始当初の背景

本研究は、風水（または堪輿）思想における景観上での四方四神[1]の表現方法に関する比較研究である。個別には、四神獣は、東アジア全体において、後方（もしくは北方）[2]の玄武、前方（もしくは南方）の朱雀、左方（もしくは東方）の青龍、右方（もしくは西方）の白虎として知られている。

しかしながら、風水に関する現存する最古の記録では、伝説の四神獣のそれぞれに対応する地形的な特徴は不明瞭なままである。後に、少なくとも二つの共存する風習が、東アジアにおける風水の中で、発達してきたようである。一つの風習では、自然地形の存在が強調され、四神獣は山などの地形として表現された。これに対し、もう一つの風習では、それぞれの四神獣について、異なる自然的・人為的な地形的特徴の存在が必要とされていた。本研究では、日本で「四神相応」と呼ばれる、後者の風習に注目する。

２．研究の目的

日本において、宮都造営の適地を決定する条件として「四神相応」の文言が使用された現存する最古の文献は、『平家物語』であり、「左青龍、右白虎、前朱雀、後玄武、四神相應の地なり」という記述がある（『平家物語』 巻第五 都遷）。これには、注釈者による脚注があり、 敷地条件として、東に川、西に大道、南に澤、北に聳立つ山が明記される。その注釈者による上記記述中の「四神相応」の文言解釈は、『作庭記』[3]あるいは『簠簋内伝』[4]に記される「四神相応」概念に基づいている。これらの文献では、平安京の基本方位を護っていると信じられた四獣は、その地形景観の中で、各々地理的な特徴をもった形状に象徴化される。大道といった人工物の強調を伴う上記の「四神相応」の敷地パラダイムは、自然地形の吉凶のみを調べる中国古代の風水にしたがった敷地モデルとは全く異質のものである。その風水による吉地モデルは、東西と北を馬蹄形を成す三連の山なみに囲まれ、水をたたえた平野があり、そして南にも遠方に山がある、敷地がそのような環境に恵まれた時、四護神は調和を保ったとする（黄 1999 年、Yoon 2004 年）。

多くの研究者は、『作庭記』の中国典拠を『（黄帝）宅經』とする（田村 1964 年、Shimoyama 1976 年、Kuitert 2002 年、Vieillard-Baron 2003 年 他）。『宅經』には、地理形状を易断するための指針は示されないことから、四つの異なった地理的特徴に言及した新「四神相応」モデルは、一般的に日本独自のものとされる。[5]

また、Huang (1999 年)は、都市計画と古代風水に関する研究を行い、古代中国の風水術の知識が大陸から日本へ伝播した時、その解釈の転換が起ったと結論づけている。

一方、『作庭記』や『簠簋内伝』とほぼ同一の「四神相応」の解釈を、金王朝に編纂された『重校正地理新書』第二巻の中に確認した。その現存する最古の写本の年代は 1192 年であるが、『重校正地理新書』は現存しないがこれに先立つ 1036 年から 1070 年に書かれた『地理新書』（Liu 2005 年）に依拠していることはほぼ間違いない。これは、『作庭記』が書かれた数十年前に「四神相応」の新概念が、中国文献の中にあったことを示唆するものである。しかし、この文献の存在については多くの疑問点があり、さらなる調査が必要であった。

３．研究の方法

（１）文献の検証

上記の目的のもと、風水思想上理想であるとみなされる景観の条件について、中国、日本、そして朝鮮の文献を対象として相似する要素を挙げている史料を分析した。

---

[1] 集合的には、四方四神が異なる名前で知られており、中国では四靈や四獣、日本では四禽や四神と呼ばれる。

[2] 土地の易断は、方位磁針の発明や東西南北の制定以前に遡る。しかし、風水において南を向いた言い表し方が慣例的になるにつれ、「左」「右」「前方」「後方」が、それぞれ「東」「西」「南」そして「北」に対応するようになる。

[3] 『作庭記』の最古の写本は正応二年の日付があるが、その内容から明らかに橘俊綱（1028-94）の作と考えられる。

[4] 『簠簋内伝』は安倍晴明の作と伝えられるが、村山（1981 年）は、実際には鎌倉時代の後期に書かれたと主張する。

[5] 目崎 1998 年、Takei と Keane 2001 年、目崎 2002 年他。鈴木氏のみ（2002 年）の風水に関する論考の中で、新しいモデルが中国の文献に見られることを示唆する。しかし、鈴木氏はこの記述の根拠について明らかにしていない。

a.『万葉集』、『六国史』など：古代中国の風水術についての年代と必要条件確定のため

b.『重校正地理新書』、『作庭記』、『簠簋内伝』および「新」モデルに関する上記以降の史料（『営造宅経』等）：「四神相応」の展開について考察するため（中国語文献史料は主に文淵閣四庫全書電子版を使用）

（２）史料分析

中国の文献：敦煌写本の二点（S5645 と P2615a）と『圖解校正地理新書』、『居家必用事類全集』

韓国の文献：『山林經濟』

日本の文献：『作庭記』、『吾妻鏡』、『簠簋内伝』、『太子伝玉林抄』

（３）比較検証

特に『作庭記』、『簠簋内伝』、『重校正地理新書』および 「新しい」モデルに関する中国の文献史料

（４）同分野の研究者との議論

王其亨教授（天津大学、中国）

王玉德教授（華中師範大学、中国）

Wei Dong 教授（ウィスコンシン大学マディソン校、米国）

Hong-Key Yoon 教授（オークランド大学、ニュージーランド）

Michael Paton 教授（シドニー大学、オーストラリア）

Stephen Lee Field 教授（トリニティ大学、米国）

Florian Reiter 名誉教授（フンボルト大学ベルリン、ドイツ)

Ole Bruun 教授（ロスキレ大学、デンマーク）

Hillary Pederson 講師（神戸大学、日本）

Sueyling Tsai 博士（ルプレヒト・カール大学ハイデルベルク、ドイツ）

４．研究成果

分析した記述が示す景観条件の内容について、一見すると、どの記述も同じ景観条件を提示しているように見える：向かって左側には流れる水、手前には池、右側には道、そして後ろには山というように。しかし、西側・つまり向かって右側に関する景観条件を詳しく見ると、そこには二つの異なる慣行が存在しているように見える。グループ A が「広い道」を条件としている一方、グループ B が「長い道」を条件としている。なぜこのような特定の景観が求められたのか、その理由については、一つの文献を除いて全く触れられていない。『簠簋内伝』のみが、方角の神々と景観条件の関係について言及している。 それによると、景観条件はそれぞれの神獣の性質や居住環境に基づいている。

その上、調査した資料のうち、三点を除いて、地形的特徴が欠落している場合には、ある特定の樹木を植えることで、運気を補うことができるとされている。グループ A の文献において、その欠落した部分をただ一種の樹木で代替できると明記している。グループ B の文献において、二種の樹木を植えることによって、地形要素の欠如を十分に補えると明記している。樹木の種類が選ばれた理由についても『簠簋内伝』で説明されている。それによると、地形的特徴を代替することができる樹木は、神々の居住環境そのものか、或いはその地形環境に適した品種という観点で選択されているようである。

それぞれの方角に特定の樹木を定めることに加え、 植樹する本数も規定している。こうした本数に関する条件は、グループ A に属する文献にのみ記されている。しかしながら、どの文献もその数が互いに一致することはない。ただし、写本 P2615a においては、数字の配置が方位とそれに適合的な数について説明する「河図」に完全に合致している。『簠簋内伝』は、同様の数字（６～９）を示しているが、南北が逆転しており、単純な誤写によるものかもしれない。この点に関しては、さらなる検討が必要であろう。

最後に、日本における中国風の都の位置を決定づけるにあたり「四神相応」の実践が影響したという一般的な理解に、一石を投じてみたい。現在、学識者の間では、作庭記法が宮都の位置の決定に使用された、ということが頻繁に主張されているが[6]、ごく限られた一次資料でのみ四神相応というフレーズが使用されている。最後の宮都である平安京の建造についてのみ「四神相応」という語が用い

[6] 足利健亮 (1994)、McCullough (1999)、Fiévé と Waley (2003)、Kozai (2008)など。

られている。さらに、全ての資料は、宮都建造の数世紀後に書かれたものである。随って、我々はある意味、宮都最適地選択の事後合理化を行っている史料を扱っているようなものである。原文、つまり『続日本紀』などの意味があいまいであったので[7]、後世の執筆者達は、よりポピュラーに、分かりやすく風水思想を表現したのである。ここでは、過去の風水思想について正確に再現しようとされていたわけではない。

私は、平城京や平安京などの宮都の場所を決める方法や「作庭記」に記された方法は、二つの全く異なるプロセスとして捉えるべきだと考えている。また、それぞれのプロセスでは、異なる地形要素が必要とされており、作庭記法が行政区域レベルの大規模な土地を決めるシステムであるとは考え難い。そうではなく、作庭記法は私有の居所を構える際の理想的な条件を表現しており、また、宮都内に私宅区域を設定する必要性から生まれたシステムであると考える。以上の仮説を補強する要素として以下の三点を挙げることができる。第一に、類似した表現が他の居宅造営に関する史料にも見られるという点、次に、ある特定の地形要素が無い場合の解決法が提示されている点、そして最後に、異なる居住形式について、それぞれ異なるプロセスが存在する点である。この三点に関しては、さらなる検討が必要であろう。

2014 年 1 月 13 日～15 日の 3 日間にわたって、神戸大学のヒラリー・ピーダセン講師と８世紀の儀式・信仰についての研究会を開いた。

2014 年 1 月 27 日～29 日の 3 日間にわたって、風水に関するシンポジウム「Fengshui in Asia and Beyond: Origins and Diasporas」及び現地見学会を開催した。発表者はフンボルト大学ベルリン（ドイツ）のフロリアン・ライター名誉教授(「雷法と雷神に関する考察」)とトリニティ大学（米国）のスティーブン・フィールド教授(「文学に見える風水理論について」）とオークランド大学（ニュージーランド）のホンキー・ユーン教授（「東アジアにおける風水の起源、発展、普及」）であった。

[7] 「方今、平城之地、四禽叶図、三山作鎮、亀筮並従、宜建都邑」(『続日本紀』和銅元年二月十五日）、「葛野乃大宮地者、山川毛麗久」(『日本紀略』延暦十三年十月二十八日)。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

1. Van Goethem Ellen,「東アジアの四神獣に関する比較研究：宮都・住宅・樹木」、『交響する古代 III』（明治大学古代学研究所　日本古代学教育・研究センター)、2013 年（査読無）
2. Van Goethem Ellen, “The Four Divine Beasts -- Asuka Through European Eyes”、『国際飛鳥学講演会報告書２０１２』、25-32、2012 年（査読無）
3. Van Goethem Ellen, “Cultural Borrowing and Adaptation in Ancient Japan: Capital Cities’, *Proceedings of the International Symposium on Japanese Studies “Japanese Cultural and Linguistic Identity”* (Bucharest: Bucharest University, Center for Japanese Studies)、2011 年（査読無）

〔学会発表〕（計９件）

1. Van Goethem Ellen (2013 年 11 月 12 日)
International Institute for Asian Studies Conference: Patterns of Early Asian Urbanism (ライデン、オランダ)
“Adopting and Adapting the Paradigm: Gridiron Cities in Japan”
2. Van Goethem Ellen (2013 年 9 月 28 日、招待)
チュービンゲン大学同志社日本研究センター
Workshop: Kyoto and Kansai as Sacred Space ―ワークショップ「聖地・霊的空間としての京都と関西」―
“Heiankyō: Guardian Deities and Geomantic Theories”
3. Van Goethem Ellen (2013 年 2 月 22 日、招待)
明治大学古代学研究所 国際学術研究会 『国際的日本古代学の展開—交響する古代 III』「東アジアの四神獣に関する比較研究：宮都・住宅・樹木」
4. Van Goethem Ellen (2013 年 3 月 21 日)
2013 Association for Asian Studies Annual Conference (サンディエゴ、米国)
“Conceptualizing and Manipulating Nature: Mythical Beasts, Trees, and Auspicious Sites”
5. Van Goethem Ellen (2012 年 11 月 10 日、招

待) 明治大学リバティアカデミー、明日香村「四神獣―ヨーロッパから見た飛鳥」

6. Van Goethem Ellen (2012 年 11 月 6 日、招待) Humboldt University of Berlin（ベルリン、ドイツ）
"Site Divination and the (Re)Creation of Cultural Memory"

7. Van Goethem Ellen (2011 年 8 月 28 日)
13th International Conference of the European Association of Japanese Studies (タリン、エストニア)
"Planting Trees and Healing Sites: *Sakuteiki*, *Hoki naiden*, and *Taishiden gyokurinsho*"

8. Van Goethem Ellen (2011 年 5 月 18 日)
九州大学 (就任講義)
"Planting Trees and Healing Sites: Geomantic Thought in China, Korea and Japan"

9. Van Goethem Ellen (2011 年 4 月 2 日)
2011 Association for Asian Studies Annual Conference & International Convention of Asia Scholars (ホノルル、米国)
"In Search of the 'Four Gods' Protecting Capital Cities in Cultural East Asia"

〔図書〕（計３件）

1. Van Goethem Ellen, 2014, "Chapitre 3: Interroger le paysage: À la recherche des divinités protégeant les capitales japonaises de style chinois," in Benoit Jacquet, Philippe Bonnin and Nishida Masatsugu, eds., *Dispositifs et notions de la spatialité japonaise* (Lausanne: Presses Polytechniques Universitaires Romandes), 81–100. (査読有)

2. Van Goethem Ellen, 2013, "Feng Shui Symbolism in Japan: The Four Divine Beasts," in Florian Reiter (ed.), *Theory and Reality of Feng Shui in Architecture and Landscape Art* (*Asien- und Afrikastudien der Humboldt-Universität zu Berlin* 41) (Berlin: Humboldt-Universität zu Berlin), 35–48.

3. Van Goethem Ellen, 2011, "The Four Directional Animals in East Asia: A Comparative Analysis," in Florian Reiter (ed.), *Feng Shui (Kan Yu) and Architecture* (*Asien- und Afrikastudien der Humboldt-Universität zu Berlin* 38) (Berlin: Humboldt-Universität zu Berlin), 201–216.

６．研究組織

(1)研究代表者
Ellen VAN GOETHEM（エレン・ヴァン＝フーテム）
九州大学・人文科学研究院・准教授
研究者番号：２０５１３１９６

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし